子ども図書研究室だより

2004.10.25 発行　NO.6
静岡県立中央図書館
http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/

一日　えほん としょかん

「一日えほんとしょかん」は、地域の子ども達に本との出会いの場を提供するために、県立中央図書館と市町村立図書館・図書室が協力して行っているイベントです。今年度は川根町、由比町、藤枝市で開催され、ボランティアグループの方々の御協力もあり、大勢の子ども達でにぎわっています。

このイベントでは、普段子ども図書研究室にある児童文学書や絵本が展示やおはなし会に使われます。一度に３００冊以上の本が研究室から持ち込まれ、会場は子どもの本一色に染まり、子どもたちはその中で、お話の世界を楽しみます。

９月２５日（土）に行われた藤枝市における「一日えほんとしょかん」は市政５０周年事業に協力する形で開催されました。藤枝市立図書館には「藤枝市子どもと本をつなぐ会」という団体があり、ここには市内で活躍される多くのボランティアグループが参加しています。この方々の協力のもと、当日は８５０冊におよぶ絵本がテーマ別に美しく展示されました。また、午前中に３回、午後２回、おはなし会も開かれ、どの回も用意した座席がいっぱいになるほどの盛況でした。

この日、藤枝市立図書館と子どもと本をつなぐ会からリクエストのあった本は、昔話・科学・創作童話・赤ちゃんの４テーマのものでした。選書した上でそれぞれ２００冊以上を用意しましたが、絵本を手にとって読まれているお母さん、子どもと一緒に読んでいるお父さん、大きな絵本を顔を寄せ合って読んでいる子どもたち、同じ題の昔話を読み比べたり、新しい創作童話を読んだりしているボランティアグループの方々…。思い思いの楽しみ方をしていました。

―「一日えほんとしょかん　藤枝」から―

この「一日えほんとしょかん」は今後も行われます。詳しいことを知りたい方は、子ども図書研究室または県立中央図書館企画振興課まで御連絡ください。

研究室：０５４－２６２－１２４３
企画振興課振興係：０５４－２６２－１２４６

所蔵図書紹介

暑かった夏も終わり、ようやく本格的な秋がやってきました。県立中央図書館付近の公園では銀杏やドングリを拾う姿が見られるようになりました。

ドングリのかぶっている帽子のような部分の正しい名称をご存知ですか？今回はドングリを題材にした図書を何冊か紹介します。

日本どんぐり大図鑑（徳永桂子/偕成社）

日本のカシ・シイ・ナラ・クヌギ・カシワ・クリ・ブナの実であるどんぐりと、外国産のどんぐりを実物大で美しく描いた図鑑。拾ってきた木の葉とどんぐりを見比べることもたやすく、巻末には自然観察指導員による解説が 10 項目にわたってされている。特に昆虫との関係、日本人の生活との関係などが興味深いものです。

どんぐり（こうやすすむ/福音館　かがくのとも傑作集）

秋になるとみずならの木からたくさんのどんぐりが落ちます。そのどんぐりを食べる生き物、蓄える生き物の様子が描かれます。また、食べられなかったどんぐりが地面に根をはり、大きく育つ様子が小さな子にもわかりやすく書かれています。

まいごのどんぐり（松成真理子/童心社）

小さなコウ君が「ケーキ」と名づけたどんぐりの実。コウ君のお誕生日にケーキの上にのっていたどんぐりです。いつも一緒にあそぶ「ケーキ」をコウ君はどんぐり拾いの最中に森の中で落としてしまいます。探し出せなくて涙がでちゃうコウ君。でも、「ケーキ」はその後のコウ君の成長をずっとずっと見守っています。大人になったコウ君と、大きな木になった「ケーキ」の再会が小さな感動をよびます。

**どんぐりぼうやのぼうけん
（エルサ・ベスコフ作絵石井登志子訳/童話館出版）**

かしわの葉っぱの飛行機にのって、おうちから遠く離れた場所にとばされてしまった、オッケとピルレリのどんぐりぼうや達。飛ばされて落ちた先が小人のおばあさんたちの洗濯場だったから、さあ、たいへん。洗濯物であるトロルのひげを運ばされることになっていしまいます。一方、おうちに帰って来ない坊やたちを心配して、ハシバミのヌッタとリスのスバンス氏は森に探しに出かけます。オッケとピルレリ、ヌッタとスバンス氏が無事お母さんたちの待つ森へ帰りつくまでの冒険物語。

イベント・講習会情報

■　一日えほんとしょかん

・日時　平成１６年１１月１３日（土）１４日（日）

場所　１３日　榛原町民文化センター図書室

場所　１４日　富士川町中央公民館図書室

問い合わせ　静岡県立中央図書館　企画振興課振興係

０５４－２６２－１２４６